



令和6年6月12日

研修だより 13号

## 成長を感じるとき

小笠原康晃

先生方は、どのようなときに「自分の成長」を感じますか。

「自分の成長」を感じるときには、大きく分けて2種類あるそうです。

1つ目は、できないことができるようになったときです。

2つ目は、今までにない新しい知識や技能を身に付けたときです。

このことは、児童にとっても、教師にとっても同じだそうです。

校内研修でも同じような経験をしていただきたいと思って、研修の計画や実践をしています。

成長を感じる条件の1つである、「今までにない新しい知識や技能を身に付ける」ためには、どうすればよいでしょうか。

教育書を読む。

研修会や講演会などに参加する。

様々な方法があります。

その中で、私が考えるもっとも良い方法は「対話」です。

しかも、自分より経験のある方との対話が効果的だと考えています。

将棋の世界に感想戦というものがあります。

棋士同士の対戦が終わった後、お互いの対戦を振り返ります。

「ここをこうすれば良かった。」

「このとき、ああすればよかった。」

様々な意見がお互いに出されます。

負けた棋士にとっては、大変苦痛を伴うものだそうです。

「過去戻ってやり直したい。しかし、過去にはいけない。」という気持ちに耐えることがつらいそうです。

しかし、そのときの自分に見えていなかった戦術が見えるようになるそうです。

このことを繰り返すことで、棋士としての実力も上がっていきます。

教師の世界も同じだと考えます。

授業や校務分掌、生徒指導のことで、自分より経験のある先生と話をすると、自分にはなかった新しい知識・技能を身に付けられます。